

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域おこし集いの場 井戸端会議で地域の魅力を再構築
事業主体 (連絡先)	井戸端会議 実行委員会 (実行委員長 三浦 典子 090-7266-1303)
事業区分	その他 地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	607,000 円 (うち支援金: 453,000 円)

事業内容

「知る、繋がる、始める」をキャッチフレーズに、地域の中で活動をしている様々な人達がつながることで、子供からお年寄り、そして障がいのある人達と共に、地域の中の新たな魅力を引き出す活動に着手した。子育て中のママさん達と共に「プレイセンターお話し会」を開催した。真慶寺の住職と協力して寺に植えられた沢山の椿を生かした活動(椿油づくり)を開始した。南信米俵保存会と共に、しめ縄飾り講習会を実施した。障がいのある人の芸術表現の場として個展やコンサーを開催するとともに、精神の障がいを持つ当事者が自ら支援者として活動する「ピアサポート」・当事者活動の実践と、南信地域の居場所作りを考える講演会を企画した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

井戸端会議の企画を通じて、地域づくりに関わる様々な人達とのネットワークが広がった。福祉や医療・大学の関係者、子育て中のお母さん、障がいのある人や高齢者など様々な人達が地域おこしのイベントを通して交流を行い、互いの事を知り、つながる場となった。障がいの有無にとらわれず、子供からお年寄りまで分け隔てなく共に活動を行う「地域共生社会の実現」に向けて新たな活動が始まった。精神の障がいのある方の居場所づくり、様々な立場の人達と協力した生きがいつくり・働く場づくりに向けて大きな足掛かりとなる一歩となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

「わらの活用推進のプロジェクト」「椿の里構築プロジェクト」「障がいのある人の芸術・表現の場と居場所づくり」「人と食 そして農をつなぐ活動に向けた取り組み」4分野について引き続き事業を企画し実践していく。今年度実施した活動の中で生じた課題を見直し、活動をさらに発展させ、将来的には事業化を目指していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【精神障がい者の当事者活動の実践 ～ピアサポート活動のこれからを考える～講演会】

【目標・ねらい】

- ①地域おこしのネットワーク構築
- ②社会的弱者の生きがいつくり
- ③障がいのある人の居場所づくり
- ④社会的偏見のない地域づくり

※自己評価 【A】

【理由】様々な分野の人達が井戸端会議のイベントを通じて活動に参加し始めた。互いの活動を知りつながることで、新たな活動への発展性が見込める